

|   |        |
|---|--------|
| 聖書神学専攻・旧約聖書神学関係   |        |
| 旧約聖書神学特殊研究 a  | 魯 恩碩   |
| 前期・2単位  | <登録条件> |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;<br/>         聖書形成の歴史と聖書解釈の歴史に対する理解を深めるための特殊研究のクラスである。</p>   |        |
| <p>&lt;授業の概要&gt;<br/>         この学期は、講師の拙著である『From Judah to Judaea: Socio-Economic Structures and Processes in the Persian Period』を読みながら旧約聖書形成史に関する最近の研究動向を把握した後、アレクサンドリア学派のアレゴリカルな解釈、アンティオキア学派のディポロジカルな解釈、アウグスティヌスやトマス・アキナスなどによる四重の解釈、近代以降の歴史批評学的解釈などの様々な聖書解釈の方法を検討する。</p>  |        |
| <p>&lt;履修条件&gt;</p>   |        |
| <p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 緒論的問題</li> <li>3. Origen の聖書解釈</li> <li>4. Diodore の聖書解釈</li> <li>5. Augustine の聖書解釈</li> <li>6. Luther と Calvin の聖書解釈</li> <li>7. Spinoza の聖書解釈</li> <li>8. Wellhausen の聖書解釈</li> <li>9. 現代聖書学の聖書解釈</li> <li>10. Qumran 共同体の敬虔性</li> <li>11. 旧約聖書における審判思想の歴史的発展過程</li> <li>12. 紀元前 7 世紀から 6 世紀までのユダヤ共同体における社会経済的変化の過程</li> <li>13. 紀元前 4 世紀の Yehud の政治状況と五書の正典化の関係</li> <li>14. 「契約の書」の時代背景</li> <li>15. 総括</li> </ol> |        |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;</p>   |        |
| <p>&lt;テキスト&gt;<br/>         Johannes Unsok Ro 『From Judah to Judaea: Socio-Economic Structures and Processes in the Persian Period』 (Sheffield Phoenix Press, 2013), 学生各自で購入する。</p>  |        |
| <p>&lt;参考書&gt;<br/>         授業の中で教員が指示する。</p>   |        |
| <p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;<br/>         ディスカッションなどによる授業への貢献が 3 割、プレゼンテーションが 3 割、期末レポート (5,000～6,000 字) が 4 割。期末レポートは、最終授業日に提出すること。レポートの採点基準は、論理性、独創性、正確性を重視する。</p>  |        |

|   |        |
|---|--------|
| 聖書神学専攻・旧約聖書神学関係   |        |
| 旧約聖書神学特殊研究b   | 大住 雄一  |
| 後期・2単位  | <登録条件> |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt; 旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究クラスである。博士課程前期課程 旧約聖書神学特研 I bとの合同授業であるが、後期課程院生には、それにふさわしい討論への貢献が求められる。</p>   |        |
| <p>&lt;授業の概要&gt; 「種入れぬパンの祭り」について、2013年にはテキストの水面に現れた構造を探求したが、この度は伝承史の海底に深く沈んでみたい。</p>  |        |
| <履修条件>  |        |
| <p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに 「種入れぬパンの祭り」のテキスト</li> <li>2. 出エジプト記23章と34章</li> <li>3. 申命記16章</li> <li>4. 出エジプト記12章と13章</li> <li>5. レビ記23章と民数記28章</li> <li>6. 歴代誌下8章、30章、35章、エズラ記6章</li> <li>7. 文献批判のまとめ</li> <li>8. 伝承史とは何か</li> <li>9. mattsahの語源</li> <li>10. 語源へ遡る方法</li> <li>11. セム語探索</li> <li>12. ギリシア語訳の問題</li> <li>13. 「種入れぬパンの祭り」とは本来何であったか</li> <li>14. テキストの水面に浮かびかかっているもの</li> <li>15. まとめ</li> </ol> |        |
| <準備学習等の指示>  |        |
| <テキスト>Biblia Hebraica Stuttgartensia, ThWAT(TDOT)   |        |
| <参考書> 参考文献はそのつど指示する。  |        |
| <学生に対する評価(方法・基準)> 割り当てられた課題発表の内容と、毎回の討論への参加度によって評価する。   |        |

|  |        |
|--|--------|
| 聖書神学専攻・旧約聖書神学関係  |        |
| 旧約聖書文学特殊研究 a   | 小友 聡   |
| 前期・2単位   | <登録条件> |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;<br/>         旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究のクラスである。</p>  |        |
| <p>&lt;授業の概要&gt;<br/>         雅歌の解釈に関する重要な英語文献を講読し、雅歌の文学的解釈について学ぶ。</p>   |        |
| <p>ヒブル語を履修していない者も参加できる。雅歌に関心を持ち、また英語文献を読み通す意欲のある者。</p>   |        |
| <p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション<br/>         第2回：序文 ix-xiii<br/>         第3回：pp.1-15<br/>         第4回：pp.16-33<br/>         第5回：pp.33-53<br/>         第6回：pp.54-68<br/>         第7回：第1章 pp.69-82<br/>         第8回：第2章 pp.83-92<br/>         第9回：第3章 pp.93-102<br/>         第10回：第4章 pp.103-113<br/>         第11回：第5章 pp.114-126<br/>         第12回：第6章 pp.127-150<br/>         第13回：第7章 pp.151-159<br/>         第14回：第8章 pp.160-191<br/>         第15回：pp.192-210</p> |        |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;<br/>         英文の聖書学の文献を毎回20頁くらい読むため、通読して参加すること。担当者にレポートをしていただく。</p>  |        |
| <p>&lt;テキスト&gt;<br/>         Andre LaCocque, Romance She Wrote. A Hermeneutical Essay on Song of Songs, 1998.コピーを用いる。</p>  |        |
| <p>&lt;参考書&gt;<br/>         その都度、指示する。</p>   |        |
| <p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;<br/>         発表と授業への貢献度によって評価するが、特に聖書学的な見地からの発言を求める。</p>  |        |

|  |        |
|--|--------|
| 聖書神学専攻・旧約聖書神学関係  |        |
| 旧約聖書文学特殊研究 b   | 小友 聡   |
| 後期・2単位   | <登録条件> |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;<br/>         旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究のクラスである。</p>  |        |
| <p>並木浩一著『ヨブ記の全体像』と『「ヨブ記」論集成』を読み、ヨブ記をめぐる討論する。演習形式で行う。</p>   |        |
| <p>&lt;履修条件&gt;<br/>         ヒブル語を履修していない旧約専攻外の学生に開かれた授業である。</p>   |        |
| <p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション<br/>         第2回：1. ヨブ記緒論<br/>         第3回：2. 神の弁論は何を意味するか<br/>         第4回：3. 対話のドラマトウルギー<br/>         第5回：4. ヨブ記のレトリック<br/>         第6回：5. ヨブ記とヤハウィスト<br/>         第7回：6. 神と闘争と和解の賜物としてのヨブの霊性<br/>         第8回：7. ヨブ記と内村鑑三<br/>         第9回：8. ヨブ記と賀川豊彦（以上、『ヨブ記の全体像』）<br/>         第10回：9. ヨブ記における否定<br/>         第11回：10. 文学としてのヨブ記<br/>         第12回：11. 神義論とヨブ記<br/>         第13回：12. ヨブ記における相互テキスト性<br/>         第14回：13. ヨブ記とユダヤ民族の精神（以上、『「ヨブ記」論集成』）<br/>         第15回：並木浩一先生による特別講義</p> |        |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;<br/>         毎回担当者に発表していただき、それに基づいて全員で討議する。</p>  |        |
| <p>&lt;テキスト&gt;<br/>         並木浩一著作集Ⅰ『ヨブ記の全体像』、日本キリスト教団出版局、4000円<br/>         並木浩一『「ヨブ記」論集成』、教文館、3000円</p>   |        |
| <p>&lt;参考書&gt;<br/>         その都度、指示する。</p>   |        |
| <p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;<br/>         発表と授業への積極性、また学期末の提出レポート（約8000字）によって評価する。</p>   |        |

|  |        |
|--|--------|
| 聖書神学専攻・旧約聖書神学関係  |        |
| 旧約聖書原典特殊研究 a   | 本間 敏雄  |
| 前期・2単位   | <登録条件> |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;</p> <p>旧約聖書原典である写本とマソラ本文、特にマソラの専門的知識を修得し、ユダヤ教正典（Miqra）としての本文と諸現象の理解を深め、テキストの神学を探る。</p>   |        |
| <p>&lt;授業の概要&gt;</p> <p>創世記37章以下のヨセフ物語を代表的ベン・アシェル写本であるレニングラード写本（L）で読み、ユダヤ教聖書学の結晶であるマソラとヒブル語本文の諸現象を学びテキスト理解を深めたい。構文及び本文批判、伝承史等積義的諸方法も検討し、諸訳を参照しつつ積義する。後期課程「旧約聖書原典積義 I a」と合同。</p>  |        |
| <p>&lt;履修条件&gt;</p> <p>ヒブル語文法修得者</p>   |        |
| <p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：創世記37：1－5 ヨセフと兄弟達<br/> 第2回：創世記37：6－11 ヨセフの夢<br/> 第3回：創世記37：12－17 シケムのヨセフ<br/> 第4回：創世記37：18－24 襲われたヨセフ<br/> 第5回：創世記37：25－30 兄弟達の計略<br/> 第6回：創世記37：31－36 〃<br/> 第7回：創世記39：1－3、19－23 エジプトのヨセフ<br/> 第8回：創世記40：1－8 役人の夢<br/> 第9回：創世記40：9－15 ヨセフの解き明かし<br/> 第10回：創世記40：16－23 〃<br/> 第11回：創世記41：17－24 ファラオの夢<br/> 第12回：創世記41：25－32 ヨセフの解き明かし<br/> 第13回：創世記41：33－40 宮廷のヨセフ<br/> 第14回：創世記41：41－49 ヨセフの支配<br/> 第15回：創世記41：50－57 マナセとエフライム</p> |        |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;</p>  |        |
| <p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>Biblia Hebraica Stuttgartensia(BHS)、レニングラード写本（Codex Leningradensis）、アレppo写本（Codex Aleppo）写真版。辞書は Gesenius、BDB 或いは HALOT（HALAT）。</p>   |        |
| <p>&lt;参考書&gt;</p> <p>「ヒブル語入門」12. 補説：本文の諸現象（補注一覧）（改訂増補版 左近／本間）、「旧約聖書の本文研究」（E. ヴェルトヴァイン 鍋谷／本間共訳）、Leitfaden zur Biblia Hebraica(R. Wonneberger), A simplified guide to BHS(H.P.Rueger), Massorah Gedolah - iuxta Codicem Leningradensem(ed. G.E.Weil)</p>  |        |
| <p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;</p> <p>討議及び、写本とマソラ本文の課題に関するレポートによって評価する。</p>  |        |

|  |        |
|--|--------|
| 聖書神学専攻・旧約聖書神学関係  |        |
| 旧約聖書原典特殊研究 b   | 本間 敏雄  |
| 後期・2単位   | <登録条件> |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;</p> <p>旧約聖書原典である写本とマソラ本文、特にマソラの専門的知識を修得し、ユダヤ教正典（Miqra）としての本文と諸現象の理解を深め、テキストの神学と聖書学的解釈の地平を展望する。</p>   |        |
| <p>&lt;授業の概要&gt;</p> <p>創世記45章以下のヨセフ物語を、代表的ベン・アシェル写本であるレニングラード写本（L）写本で読み、ユダヤ教聖書学の結晶であるマソラとヒブル語本文の諸現象を学びテキスト理解を深めたい。構文及び本文批判、伝承史等積義的諸方法も検討し、諸訳を参照しつつ積義する。後期課程「旧約聖書原典積義I b」と合同。</p>  |        |
| <p>&lt;履修条件&gt;</p> <p>ヒブル語文法修得者</p>   |        |
| <p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：創世記45：1－8 身を明かすヨセフ<br/> 第2回：創世記45：9－15 父を招く<br/> 第3回：創世記45：16－23 ファラオの応接<br/> 第4回：創世記45：24－28 ヤコブの喜び<br/> 第5回：創世記46：1－7 ヤコブ、エジプトへ<br/> 第6回：創世記46：28－34 ゴシェンでの再会<br/> 第7回：創世記47：1－6 ヤコブとファラオの会見<br/> 第8回：創世記47：7－12 〃<br/> 第9回：創世記47：13－19 ヨセフの政策<br/> 第10回：創世記47：20－26 〃<br/> 第11回：創世記47：27－31 ヤコブの遺言<br/> 第12回：創世記48：1－7 マナセとエフライム<br/> 第13回：創世記48：8－14 〃<br/> 第14回：創世記48：15－18 ヤコブの祝福<br/> 第15回：創世記48：19－22 〃</p> |        |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;</p>  |        |
| <p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>Biblia Hebraica Stuttgartensia(BHS)、レニングラード写本（Codex Leningradensis）、アレppo写本（Codex Aleppo）写真版。辞書は Gesenius、BDB 或いは HALOT（HALAT）。</p>   |        |
| <p>&lt;参考書&gt;</p> <p>「ヒブル語入門」12. 補説：本文の諸現象（補注一覧）（改訂増補版 左近／本間）、「旧約聖書の本文研究」（E. ヴェルトヴァイン 鍋谷／本間共訳）、Leitfaden zur Biblia Hebraica(R. Wonneberger), A simplified guide to BHS(H.P.Rueger), Massorah Gedolah - iuxta Codicem Leningradensem(ed. G.E.Weil)</p>  |        |
| <p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;</p> <p>討議及び、写本とマソラ本文の課題に関するレポートによって評価する。</p>  |        |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 聖書神学専攻・旧約聖書神学関係  |                     |
| 聖書語学特殊研究 a   | 佐藤 泉                |
| 前期・2単位   | <登録条件> 通年での履修が望ましい。 |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;</p> <p>旧約聖書原典は主にヘブライ語で、一部アラム語で書かれている。この授業では、聖書のアラム語のテキストを読むことと古代訳の一つであるタルグム（アラム語訳）を読むことを目標としている。</p>   |                     |
| <p>&lt;授業の概要&gt;</p> <p>聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（創世記 31：47・エレミヤ 10：11・エズラ 4：8-24・5：1-17 など）、アラム語文法を学ぶ。</p>  |                     |
| <p>&lt;履修条件&gt;</p> <p>ヒブル語履修済みであることが望ましい。</p>   |                     |
| <p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第 1 回：序 アラム語について、言語グループ、時代区分などを話す。</p> <p>第 2 回：創世記 31：47 を読みつつ、アラム語の名詞・形容詞を学ぶ。</p> <p>第 3 回：エレミヤ 10：11 を読みつつ、動詞の Peal 形の完了・未完了を学ぶ。</p> <p>第 4 回：エズラ 4：8-24 の講読(1) 不規則変化の名詞について学ぶ。</p> <p>第 5 回：エズラ 4：8-24 の講読(2) 動詞の Hapel 形の完了を学ぶ。</p> <p>第 6 回：エズラ 4：8-24 の講読(3) 動詞の Peal 形の分詞、Hitpeel 形の完了・未完了を学ぶ。</p> <p>第 7 回：エズラ 4：8-24 の講読(4) 動詞の Pael 形の完了・未完了、Hapel 形の未完了を学ぶ。</p> <p>第 8 回：エズラ 4：8-24 の講読(5) 動詞の Hapel 形の分詞を学ぶ。</p> <p>第 9 回：エズラ 4：8-24 の講読(6) 動詞の Pael 形・Hitpeel 形・Hitpaal 形の分詞を学ぶ。</p> <p>第 10 回：エズラ 4：8-24 の講読(7) 二根字動詞の Peal 形と動詞の不定詞・命令を学ぶ。</p> <p>第 11 回：エズラ 5：1-17 の講読(1) 前置詞と代名詞語尾を学ぶ。</p> <p>第 12 回：エズラ 5：1-17 の講読(2) 二根字動詞の Hapel 形を学ぶ</p> <p>第 13 回：エズラ 5：1-17 の講読(3) 二根字動詞の Hitpeel 形を学ぶ。</p> <p>第 14 回：エズラ 5：1-17 の講読(4) Pè Yòd 動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第 15 回：エズラ 5：1-17 の講読(5) Pè Nûn 動詞の変化を学ぶ。</p> |                     |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;</p> <p>講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。</p>  |                     |
| <p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition</p>   |                     |
| <p>&lt;参考書&gt;</p> <p>左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』[改訂増補版] 教文館、2011</p> <p>William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971</p>  |                     |
| <p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;</p> <p>予習・復習、積極的な授業参加の状況、聖書のアラム語のテキストの中から指定された箇所に関する発表によって成績をつける。</p>   |                     |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 聖書神学専攻・旧約聖書神学関係   |                     |
| 聖書語学特殊研究 b  | 佐藤 泉                |
| 後期・2単位  | <登録条件> 通年での履修が望ましい。 |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;</p> <p>旧約聖書原典は主にヘブライ語で、一部アラム語で書かれている。この授業では、聖書のアラム語のテキストを読むことと古代訳の一つであるタルグム（アラム語訳）を読むことを目標としている。</p>  |                     |
| <p>&lt;授業の概要&gt;</p> <p>聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（ダニエル書）、アラム語文法の学びを継続する。さらに、エレミヤ書などのタルグムの講読もする。（箇所は未定。授業中に指示する。）</p>  |                     |
| <p>&lt;履修条件&gt;</p> <p>ヒブル語履修済みであることが望ましい。</p>  |                     |
| <p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：ダニエル書の緒論的知識を確認し、前期の文法の復習をしつつ、ダニエル5章の講読に備える。</p> <p>第2回：ダニエル書の講読(1) Pè' ālep 動詞の Peal 形を学ぶ。</p> <p>第3回：ダニエル書の講読(2) Pè' ālep 動詞の Hapel 形を学ぶ。</p> <p>第4回：ダニエル書の講読(3) 動詞の変化で字位転換が起こる場合について学ぶ。</p> <p>第5回：ダニエル書の講読(4) Lamed' ālep・Lamed Hē 動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第6回：ダニエル書の講読(5) 二重' ayin 動詞の Peal 形を学ぶ。</p> <p>第7回：ダニエル書の講読(6) 二重' ayin 動詞の Hopal 形を学ぶ。</p> <p>第8回：ダニエル書の講読(7) 代名詞語尾つきの動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第9回：ダニエル書の講読(8) 喉音を含む動詞について学ぶ。</p> <p>第10回：ダニエル書の講読(9) 特殊な変化をする動詞について学ぶ。</p> <p>第11回：エレミヤ書の緒論的知識とバビロニア方式の母音記号を確認し、タルグムの講読に備える。</p> <p>第12回：タルグムの講読(1) バビロニア方式の母音記号で読むことに慣れる。</p> <p>第13回：タルグムの講読(2) タルグムのアラム語の動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第14回：タルグムの講読(3) アラム語文法を全体的に思い出しつつ読む。</p> <p>第15回：タルグムの講読(4) 原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。</p> |                     |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;</p> <p>講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。</p>   |                     |
| <p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition</p>  |                     |
| <p>&lt;参考書&gt;</p> <p>左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』[改訂増補版] 教文館、2011</p> <p>William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971</p>   |                     |
| <p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;</p> <p>予習・復習、積極的な授業参加の状況、タルグムのアラム語のテキストの中から指定された箇所に関する発表によって成績をつける。</p>  |                     |

|  |  |
|--|--|
| 聖書神学専攻・新約聖書神学関係  |  |
| 新約聖書原典特殊研究 a   | 遠藤 勝信  |
| 前期・2単位   | <登録条件>原則として通年(a, b)で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。 |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;</p> <p>ヨハネの福音書6後半～7章(論争)の原典釈義。研究史、釈義の方法論を踏まえつつ、テキストと真摯に向き合う。テキストの文学性、及び歴史との関連性を意識しつつ丁寧に釈義し、神学的考察へと向かう。</p>   |  |
| <p>&lt;授業の概要&gt;</p> <p>はじめに、近年のヨハネ福音書研究の動向(研究史、方法論)を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。釈義の正確さと共に、慎重な議論の仕方、神学的掘り下げについて学び合う。</p>   |  |
| <p>&lt;履修条件&gt;</p> <p>新約ギリシャ語原典テキスト読解力(ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい)を有すること。</p>   |  |
| <p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>I. 講義を中心に</p> <p>第01回 研究史を概観し、近年の研究状況と釈義の諸問題を学ぶ。</p> <p>第02回 ギリシャ語新約聖書本文批評の実際。</p> <p>第03回 テキストの文学批評の実際。</p> <p>第04回 テキストと歴史批評の実際。</p> <p>II. 演習(参加者による釈義の発表とディスカッション)を中心に</p> <p>第05回 ヨハネ6:41～51(いのちのパンーその1)の原典釈義</p> <p>第06回 ヨハネ6:52～59(いのちのパンーその2)の原典釈義</p> <p>第07回 ヨハネ6:60～71(いのちのこぼ)の原典釈義</p> <p>第08回 ヨハネ7:01～09(イエスの時)の原典釈義</p> <p>第09回 ヨハネ7:10～18(イエスのこぼ)の原典釈義</p> <p>第10回 ヨハネ7:19～24(正しいさばき)の原典釈義</p> <p>第11回 ヨハネ7:25～30(キリストはどこから)の原典釈義</p> <p>第12回 ヨハネ7:31～36(キリストはどこへ)の原典釈義</p> <p>第13回 ヨハネ7:37～44(イエスの招き)の原典釈義</p> <p>第14回 ヨハネ7:45～53(サンヘドリンでの会議)の原典釈義</p> <p>III. 総括</p> <p>第15回 釈義演習の総括的な反省と展望。</p> |  |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;</p> <p>クラスで取り上げる箇所のギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。</p>  |  |
| <p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>Nestle-Aland (28<sup>th</sup> ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i></p>   |  |
| <p>&lt;参考書&gt;</p> <p>R・ブルトマン著、杉原助訳『ヨハネの福音書』、2005年</p> <p>R・A・カルペッパー著、伊東寿泰訳『ヨハネ福音書文学的解剖』2005年</p> <p>R・ボウカム、浅野淳博訳『イエスとその目撃者たち』2011年</p> <p>C.S. Keener, <i>The Gospel of John- A Commentary vol.1</i>, 2003.</p> <p>M. Endo, <i>Creation and Christology - A Study on the Johannine Prologue</i> (WUNT), 2002. 他、クラスで随時紹介。</p>   |  |
| <p>&lt;学生に対する評価(方法・基準)&gt;</p> <p>授業における発表と期末試験(指定されたテキストについての釈義ペーパー [8,000～10,000文字])。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。</p>  |  |

|  |  |
|--|--|
| 聖書神学専攻・新約聖書神学関係  |  |
| 新約聖書原典特殊研究 b   | 遠藤 勝信  |
| 後期・2単位   | <登録条件>原則として通年(a, b)で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。 |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;</p> <p>ヨハネの黙示録9～12章の原典釈義。研究史、釈義の方法論を踏まえつつ、テキストと真摯に向き合う。テキストの文学性、及び歴史との関連性を意識しつつ丁寧に釈義し、神学的考察へと向かう。</p>  |  |
| <p>&lt;授業の概要&gt;</p> <p>近年の黙示録研究の動向(研究史、方法論)を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。釈義の正確さと共に、慎重な議論の仕方、神学的掘り下げについて学び合う。</p>   |  |
| <p>&lt;履修条件&gt;</p> <p>新約ギリシア語原典テキスト読解力(ギリシア語中級文法の知識があることが望ましい)を有すること。</p>   |  |
| <p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>I. 講義を中心に</p> <p>第01回 イントロダクション。黙示録の文学ジャンル。</p> <p>第02回 黙示録を読む前に(その1): 黙示録の周辺、背景理解。</p> <p>第03回 黙示録を読む前に(その2): 構造と構成、神学、他。</p> <p>第04回 黙示録1～5章までを概観し、釈義の営みにおける課題と観点を確認する。</p> <p>II. 演習(参加者による発表とディスカッション)を中心に</p> <p>第05回 黙示録09:01～06(第五のラッパーその1)の原典釈義</p> <p>第06回 黙示録09:07～12(第五のラッパーその2)の原典釈義</p> <p>第07回 黙示録09:13～16(第六のラッパーその1)の原典釈義</p> <p>第08回 黙示録09:17～21(第六のラッパーその2)の原典釈義</p> <p>第09回 黙示録10:01～07(力強い天使の幻)の原典釈義</p> <p>第10回 黙示録10:08～11(小さな巻物の幻)の原典釈義</p> <p>第11回 黙示録11:01～06(二人の証人による預言)の原典釈義</p> <p>第12回 黙示録11:07～13(二人の証人の死と復活)の原典釈義</p> <p>第13回 黙示録11:14～19(第七のラッパ)の原典釈義</p> <p>第14回 黙示録12:01～06(巨大なしるし)の原典釈義</p> <p>III. 総括</p> <p>第15回 釈義演習の総括的な反省と展望。</p> |  |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;</p> <p>クラスで取り上げる箇所のギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。</p>  |  |
| <p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>Nestle-Aland (27<sup>th</sup> or 28<sup>th</sup> ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i></p>  |  |
| <p>&lt;参考書&gt;</p> <p>佐竹明著『ヨハネの黙示録』(上・中巻)2009年</p> <p>R・ボウカム著、飯郷友康・小河陽訳『ヨハネ黙示録の神学』2001年</p> <p>R. Bauckham, <i>The Climax of Prophecy</i>, 1993.</p> <p>G. Beale, <i>The Book of Revelation</i> (NIGTC), 1999.</p> <p>D. Aune, <i>Revelation 6-16</i> (WBC), 1997.</p> <p>S. Smalley, <i>The Revelation of John</i> (IVP), 2005. 他、クラスで随時紹介。</p>   |  |
| <p>&lt;学生に対する評価(方法・基準)&gt;</p> <p>授業における発表と期末試験(指定されたテキストの釈義ペーパー[8,000～10,000文字])。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。</p>   |  |

|   |            |
|---|------------|
| 聖書神学専攻・新約聖書神学関係   |            |
| 聖書解釈学特殊研究 a   | 中野 実       |
| 前期・2単位  | <登録条件>特になし |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;<br/> 新約聖書学、新約聖書神学における重要研究課題について学び、その理解を深める事がクラスの目標。今回は、正典成立史、および正典的聖書解釈について学ぶ。</p>  |            |
| <p>&lt;授業の概要&gt;<br/> 前期は、新約聖書正典の成立史、正典化プロセスについて歴史的な視点から学ぶ。</p>   |            |
| <p>&lt;履修条件&gt;<br/> 通年で履修するのが原則であるが、そうでない場合は、事前に担当者と相談すること。</p>  |            |
| <p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 導入：用語の説明、課題、問題の所在について</li> <li>③ 旧約聖書正典とは？</li> <li>④ ヘブライ語（旧約）聖書とギリシャ語訳（旧約）聖書（七十人訳）</li> <li>⑤ キリスト教聖典としての旧約聖書</li> <li>⑥ 「四福音書」の成立</li> <li>⑦ 「パウロ書簡集」の成立</li> <li>⑧ 「ノミナ・サクラ」（Nomina Sacra）とコーデックス</li> <li>⑨ 信仰の規範（regula fidei）</li> <li>⑩ いわゆる「異端」と正典成立：マルキオン</li> <li>⑪ いわゆる「異端」と正典成立：グノーシス主義</li> <li>⑫ 新約正典の核と周辺</li> <li>⑬ 二つの契約書（旧約と新約）から成るキリスト教正典の重要性</li> <li>⑭ 4世紀における正典化</li> <li>⑮ まとめ</li> </ol> |            |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;<br/> 指示された課題についてコツコツ丁寧に取り組む事。</p>   |            |
| <p>&lt;テキスト&gt;<br/> H・Y・ギャンブル『新約聖書正典：その生成と意味』（教文館）1988年。</p>   |            |
| <p>&lt;参考書&gt;<br/> クラスで、必要に応じて指示する事とする。</p>  |            |
| <p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;<br/> クラスへの積極的参加（出席、発表、質問、コメントなど）を求める。成績は、出席（三分の二に達しない場合は原則として評価の対象にしない）、分担発表、参加度および期末レポート（6000字程度）によって総合的に評価する。</p>  |            |

|  |            |
|--|------------|
| 聖書神学専攻・新約聖書神学関係  |            |
| 聖書解釈学特殊研究 b  | 中野 実       |
| 後期・2単位   | <登録条件>特になし |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;<br/> 新約聖書学、新約聖書神学における重要研究課題について学び、その理解を深めることがクラスの目標。今回は、正典成立史、および正典的聖書解釈について学ぶ。</p>  |            |
| <p>&lt;授業の概要&gt;<br/> 後期は、現在の聖書学における正典をめぐる議論、とくに正典批評、正典的アプローチについて学ぶ。</p>   |            |
| <p>&lt;履修条件&gt; 通年で履修するのが原則。そうでない場合は、事前に担当者と相談すること。</p>  |            |
| <p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 導入：批評学誕生以前の状況</li> <li>② 導入：歴史批評学の登場と課題</li> <li>③ 正典批評、正典的アプローチの必要性</li> <li>④ ジェームス A. サンダース</li> <li>⑤ ブリヴァード. チャイルズ</li> <li>⑥ ブラーテン、ジェンソン『聖書を取り戻す』（教文館）を読む</li> <li>⑦ ジェームス バー『聖なる書物』（教文館）を読む</li> <li>⑧ 海外での議論と日本での議論</li> <li>⑨ 渡辺善太 『聖書正典論1』（ヨベル）を読む</li> <li>⑩ 渡辺善太『聖書正典論2』（ヨベル）を読む</li> <li>⑪ 田川建三『書物としての新約聖書』（勁草書店）を読む</li> <li>⑫ 関西学院大学キリスト教と文化研究センター『聖書の解釈と正典』（キリスト新聞社）を読む</li> <li>⑬ その他の文献を読む</li> <li>⑭ 以上の学びのまとめ：問題の所在と解決の糸口</li> <li>⑮ クラス全体のまとめ</li> </ol> |            |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;<br/> 前期の項目を参照</p>  |            |
| <p>&lt;テキスト&gt;<br/> 渡辺善太『聖書論 聖書正典論1』および『同2』渡辺善太著作選3-4、ヨベル、2012-13年。<br/> C・E・ブラーテン、R・W・ジェンソン『聖書を取り戻す』芳賀力訳、教文館、1998年。<br/> James A. Sanders, <i>Canon and Community</i> (Philadelphia: Fortress, 1984)。</p>  |            |
| <p>&lt;参考書&gt;<br/> 必要に応じてクラスで指示する。</p>  |            |
| <p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;<br/> 出席、分担発表、参加度と、期末レポート（6000字程度）によって総合的に評価する。ただし、出席が三分の二に達しない場合は、原則として評価の対象としない。</p>   |            |

|  |   |
|--|---|
| 聖書神学専攻   |   |
| 博士論文指導演習聖書神学 a   | 各指導教授   |
| 前期・0単位   | <登録条件>2011 年度以降博士課程後期課程に入学した聖書神学専攻者は、博士論文指導演習聖書神学 b と通年で登録すること。 |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;<br/>         学生各自の研究課題に従い、文献の講読や討論などを通じて博士論文を作成する。</p>                 |   |
| <p>&lt;授業の概要&gt;<br/>         各自の研究課題に沿って、諸文献の検討、論文のテーゼや構成・内容などについて指導教授と対話しつつ、博士論文の作成にあたる。</p> |   |
| <p>&lt;履修条件&gt;<br/>         2011 年度以降博士課程後期課程に入学した聖書神学専攻者。</p>                                |   |
| <p>&lt;授業計画&gt;<br/>         各指導教授が年度初めに配付する「研究指導計画書」に拠る。</p>                                  |   |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;</p>  |   |
| <p>&lt;テキスト&gt;</p>  |   |
| <p>&lt;参考書&gt;</p>   |   |
| <p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;</p>   |   |

|  |   |
|--|---|
| 聖書神学専攻   |   |
| 博士論文指導演習聖書神学 b   | 各指導教授   |
| 後期・0単位   | <登録条件>2011 年度以降博士課程後期課程に入学した聖書神学専攻者は、博士論文指導演習聖書神学 a と通年で登録すること。 |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;<br/>         学生各自の研究課題に従い、文献の講読や討論などを通じて博士論文を作成する。</p>                 |   |
| <p>&lt;授業の概要&gt;<br/>         各自の研究課題に沿って、諸文献の検討、論文のテーゼや構成・内容などについて指導教授と対話しつつ、博士論文の作成にあたる。</p> |   |
| <p>&lt;履修条件&gt;<br/>         2011 年度以降博士課程後期課程に入学した聖書神学専攻者。</p>                                |   |
| <p>&lt;授業計画&gt;<br/>         各指導教授が年度初めに配付する「研究指導計画書」に拠る。</p>                                  |   |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;</p>  |   |
| <p>&lt;テキスト&gt;</p>  |   |
| <p>&lt;参考書&gt;</p>   |   |
| <p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;</p>   |   |

|   |        |
|---|--------|
| 組織神学専攻・組織神学関係   |        |
| 教義学特殊研究 a   | 近藤 勝彦  |
| 前期・2単位  | <登録条件> |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;<br/>         摂理に関する教義学的な考察を深めて、歴史の意味や歴史における「神の支配」を探究する。</p>   |        |
| <p>&lt;授業の概要&gt;<br/>         摂理に関する 20 世紀の神学者たちの議論を探究し、同一の視点から「教会と国家」や Zwei –Reichen-Lehre についても検討する。</p>  |        |
| <p>&lt;履修条件&gt;</p>   |        |
| <p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、摂理論の現代的意味</li> <li>2、バターフィールドによる歴史家としての摂理論の評価</li> <li>3、カール・バルトの摂理論</li> <li>4、そのキリスト論的性格</li> <li>5、摂理と歴史の問題</li> <li>6、三位一体論的摂理論</li> <li>7、摂理論の文脈としての救済史</li> <li>8、アルトハウスの摂理論</li> <li>9、パネンベルクの摂理論</li> <li>10、教会史と人類史における摂理（神の統治）</li> <li>11、摂理論の総括</li> <li>12、摂理論と二世界統治説</li> <li>13、エルンスト・ヴォルフの場合</li> <li>14、ペーター・ブルンナーの場合</li> <li>15、全体のまとめ</li> </ol> |        |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;</p>   |        |
| <p>&lt;テキスト&gt;<br/>         H. Butterfield, Christianity and History の他、その都度指示する。</p>  |        |
| <p>&lt;参考書&gt;<br/>         『神学』74号（世界史と救済史）、バルト『創造論』3/1など。</p>   |        |
| <p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;<br/>         出席態度とレポートによる。レポート（6,000-7,000 字）は神学的な水準の高い文献を用いながら論文の形式を踏んで書くこと。</p>  |        |

|  |        |
|--|--------|
| 組織神学専攻・組織神学関係  |        |
| 教義学特殊研究 b  | 近藤 勝彦  |
| 後期・2単位   | <登録条件> |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;<br/>歴史の文脈におけるキリスト教の弁証を試みる。</p>   |        |
| <p>&lt;授業の概要&gt;<br/>歴史の恐怖や歴史の意味、目的、担い手などの問題を扱い、その文脈におけるキリスト教の真理性の弁証を行う。</p>   |        |
| <p>&lt;履修条件&gt;</p>  |        |
| <p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、歴史的経験と歴史の意味</li> <li>2、「歴史」の語義</li> <li>3、歴史の恐怖と非歴史的逃避の困難</li> <li>4、ミルチア・エリアーデの指摘</li> <li>5、マックス・ヴェーバーの指摘</li> <li>6、カール・レーヴィットの指摘</li> <li>7、コスモスタイプと歴史タイプ（ジェームス・ルーサー・アダムス）</li> <li>8、「歴史的宗教」の意味</li> <li>9、歴史的宗教の根拠としての歴史的啓示</li> <li>10、「歴史神学」の復権、歴史哲学は歴史神学である</li> <li>11、救済史と世界史</li> <li>12、歴史とメシアニズム</li> <li>13、歴史と世界審判</li> <li>14、歴史の終りと完成</li> <li>15、総括</li> </ol> |        |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;<br/>授業の中で、自分の問題意識を明確にする努力、それを文献と取り組みながら探究していくこと。</p>   |        |
| <p>&lt;テキスト&gt;<br/>エリアーデ『永遠回帰の神話』など、その都度指示する。</p>   |        |
| <p>&lt;参考書&gt;<br/>レーヴィット『救済史と世界史』など、その都度指示する。</p>   |        |
| <p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;<br/>出席態度とレポートによる。レポート（6,000-7,000字）はかならず何らかの文献を扱いながら論じること。</p>  |        |

|  |                          |
|--|--------------------------|
| 組織神学専攻・組織神学関係  |                          |
| 現代神学特殊研究 a   | 芳賀 力                     |
| 前期・2単位   | <登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。 |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;<br/>         新しくナラティヴ神学のアプローチを用いたキリスト論と救済論の試みを徹底的に分析する。前期はテキストの上巻をもとに討論する。ナラティヴ神学的な救済論について理解することが求められる。</p>  |                          |
| <p>&lt;授業の概要&gt;<br/>         担当者を決め、順番に内容をもと要約し、コメントしてもらい、討論する。</p>   |                          |
| <p>&lt;履修条件&gt;<br/>         聖書神学専攻でもかまわない。</p>  |                          |
| <p>&lt;授業計画&gt;<br/>         第1回 主題と探求方法についてオリエンテーションを行い、分担を決める。<br/>         第2回 上巻 23 - 69頁の内容を検討する。<br/>         第3回 上巻 70 - 113頁の内容を検討する。<br/>         第4回 上巻114 - 159頁の内容を検討する。<br/>         第5回 上巻160 - 207頁の内容を検討する。<br/>         第6回 上巻208 - 247頁の内容を検討する。<br/>         第7回 上巻248 - 295頁の内容を検討する。<br/>         第8回 上巻296 - 343頁の内容を検討する。<br/>         第9回 上巻344 - 391頁の内容を検討する。<br/>         第10回 上巻392 - 437頁の内容を検討する。<br/>         第11回 上巻438 - 485頁の内容を検討する。<br/>         第12回 上巻486 - 529頁の内容を検討する。<br/>         第13回 上巻530 - 574頁の内容を検討する。<br/>         第14回 上巻575 - 611頁の内容を検討する。<br/>         第15回 これまでの議論を振り返り、総括する。</p> |                          |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;<br/>         前もってテキストの該当箇所をよく読んでくること。</p>  |                          |
| <p>&lt;テキスト&gt;<br/>         ベルナル・セズプーエ『イエス・キリスト 唯一の仲介者』上巻（サンパウロ）を各自購入すること。</p>  |                          |
| <p>&lt;参考書&gt;<br/>         授業の中で必要に応じて指示する。</p>   |                          |
| <p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;<br/>         学期末に関連テーマで小論文を作成し、提出してもらう。</p>   |                          |

|   |                          |
|---|--------------------------|
| 組織神学専攻・組織神学関係   |                          |
| 現代神学特殊研究 b  | 芳賀 力                     |
| 後期・2単位  | <登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。 |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;<br/>         新しくナラティブ神学のアプローチを用いたキリスト論と救済論の試みを徹底的に分析する。後期はテキストの下巻をもとに討論する。ナラティブ神学的な救済論についてさらに新たな可能性を模索する。</p>   |                          |
| <p>&lt;授業の概要&gt;<br/>         担当者を決め、順番に内容を要約し、コメントしてもらい、討論する。</p>  |                          |
| <p>&lt;履修条件&gt;<br/>         聖書神学専攻でもかまわない。</p>   |                          |
| <p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 下巻 22 - 58頁の内容を検討する。</p> <p>第2回 下巻 59 - 94頁の内容を検討する。</p> <p>第3回 下巻 95 - 130頁の内容を検討する。</p> <p>第4回 下巻131 - 166頁の内容を検討する。</p> <p>第5回 下巻167 - 202頁の内容を検討する。</p> <p>第6回 下巻203 - 237頁の内容を検討する。</p> <p>第7回 下巻238 - 272頁の内容を検討する。</p> <p>第8回 下巻273 - 308頁の内容を検討する。</p> <p>第9回 下巻309 - 345頁の内容を検討する。</p> <p>第10回 下巻346 - 379頁の内容を検討する。</p> <p>第11回 下巻380 - 413頁の内容を検討する。</p> <p>第12回 下巻414 - 447頁の内容を検討する。</p> <p>第13回 下巻448 - 482頁の内容を検討する。</p> <p>第14回 下巻483 - 515頁の内容を検討する。</p> <p>第15回 これまでの議論を振り返り、総括する。</p> |                          |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;<br/>         前もってテキストの該当箇所をよく読んでくること。</p>   |                          |
| <p>&lt;テキスト&gt;<br/>         ベルナル・セズブーエ『イエス・キリスト 唯一の仲介者』下巻（サンパウロ）を各自購入すること。</p>   |                          |
| <p>&lt;参考書&gt;<br/>         授業の中で必要に応じて指示する。</p>  |                          |
| <p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;<br/>         学期末に関連テーマで小論文を作成し、提出してもらう。</p>  |                          |

|  |                                   |
|--|-----------------------------------|
| 組織神学専攻・組織神学関係  |                                   |
| 現代哲学特殊研究 a   | 神代 真砂実                            |
| 前期・2単位   | <登録条件>現代哲学特殊研究 b との通年の履修（登録）が望ましい |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;<br/>後期課程レベルの組織神学的思考力の育成</p>  |                                   |
| <p>&lt;授業の概要&gt;<br/>カール・バルトの『教会教義学』の演習形式による精読。今年度は創造論中の摂理論。</p>   |                                   |
| <p>&lt;履修条件&gt;<br/>(特になし)</p>   |                                   |
| <p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション、およびバルトの思想の概要・特徴の紹介</p> <p>第2回 48節の一：テキスト 3～24 頁</p> <p>第3回 48節の二（その1）：テキスト 25～34 頁</p> <p>第4回 同（その2）：テキスト 34～50 頁</p> <p>第5回 同（その3）：テキスト 50～64 頁</p> <p>第6回 48節の三（その1）：テキスト 65～86 頁</p> <p>第7回 同（その2）：テキスト 86～109 頁</p> <p>第8回 49節の一（その1）：テキスト 111～128 頁</p> <p>第9回 同（その2）：テキスト 128～149 頁</p> <p>第10回 同（その3）：テキスト 150～173 頁</p> <p>第11回 49節の二（その1）：テキスト 174～181 頁</p> <p>第12回 同（その2）：テキスト 182～205 頁</p> <p>第13回 同（その3）：テキスト 205～229 頁</p> <p>第14回 同（その4）：テキスト 229～249 頁</p> <p>第15回 同（その5）：テキスト 250～264 頁</p> |                                   |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;<br/>必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。</p>   |                                   |
| <p>&lt;テキスト&gt; カール・バルト、『教会教義学・創造論Ⅲ／1——創造者とその被造物〈上〉』、吉永正義訳（新教出版社、オンデマンド）。</p>  |                                   |
| <p>&lt;参考書&gt;<br/>授業の中で、必要に応じて紹介する。</p>   |                                   |
| <p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;<br/>発表およびレポート（8,000字程度）による。レポートの作成にあたっては、担当教員の指導を受けること。</p>   |                                   |

|   |                                   |
|---|-----------------------------------|
| 組織神学専攻・組織神学関係   |                                   |
| 現代哲学特殊研究 b  | 神代 真砂実                            |
| 後期・2単位  | <登録条件>現代哲学特殊研究 b との通年の履修（登録）が望ましい |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;<br/>後期課程レベルの組織神学的思考力の育成</p>   |                                   |
| <p>&lt;授業の概要&gt;<br/>カール・バルトの『教会教義学』の演習形式による精読。今年度は創造論中の摂理論。</p>  |                                   |
| <p>&lt;履修条件&gt;<br/>(特になし)</p>  |                                   |
| <p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション<br/>49節の二(その6):テキスト264~277頁</p> <p>第2回 同(その7):テキスト277~293頁</p> <p>第3回 49節の三(その1):テキスト294~312頁</p> <p>第4回 同(その2):テキスト312~333頁</p> <p>第5回 同(その3):テキスト333~354頁</p> <p>第6回 同(その4):テキスト354~376頁</p> <p>第7回 同(その5):テキスト376~396頁</p> <p>第8回 同(その6):テキスト396~412頁</p> <p>第9回 同(その7):テキスト412~426頁</p> <p>第10回 同(その8):テキスト426~450頁</p> <p>第11回 49節の四(その1):テキスト451~464頁</p> <p>第12回 同(その2):テキスト465~478頁</p> <p>第13回 同(その3):テキスト478~500頁</p> <p>第14回 同(その4):テキスト501~520頁</p> <p>第15回 同(その5):テキスト520~544頁</p> <p>まとめ</p> |                                   |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;<br/>必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。</p>  |                                   |
| <p>&lt;テキスト&gt; カール・バルト、『教会教義学・創造論Ⅲ/1——創造者とその被造物(上)』、吉永正義訳(新教出版社、オンデマンド)。</p>   |                                   |
| <p>&lt;参考書&gt;<br/>授業の中で、必要に応じて紹介する。</p>  |                                   |
| <p>&lt;学生に対する評価(方法・基準)&gt;<br/>発表およびレポート(8,000字程度)による。レポートの作成にあたっては、担当教員の指導を受けること。</p>  |                                   |

|   |                         |
|---|-------------------------|
| 組織神学専攻・歴史神学関係   |                         |
| 神学史特殊研究 a   | 棚村 重行                   |
| 前期・2単位  | <登録条件> 組織神学専攻者の履修が望ましい。 |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;</p> <p>「洗礼、聖餐、教会と職務―中世・宗教改革から現代まで」。主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。</p>  |                         |
| <p>&lt;授業の概要&gt;</p> <p>前期では「洗礼と聖餐」の教理の発展を扱う。先ず WCC の「リマ文書」の洗礼と聖餐の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、そして日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。</p>   |                         |
| <p>&lt;履修条件&gt;</p>   |                         |
| <p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第 1 回：コースの紹介。履修者との導入討議。<br/> 第 2 回：発表（一） 「リマ文書」の「洗礼」について。（学生 2～3 名）<br/> 第 3 回：発表（二） 「リマ文書」の「聖餐」について。（学生 2～3 名）<br/> 第 4 回：資料研究（一） 中世の洗礼と聖餐論 1（第四ラテラノ公会議、その他公式教令文書）<br/> 第 5 回：資料研究（二） 同上 2（枢機卿カジェタン、S. プリエリアス、C. ヘーン）<br/> 第 6 回：資料研究（三） 宗教改革の洗礼と聖餐論 1（ルターとルター派の「一致信条書」他）<br/> 第 7 回：資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」）<br/> 第 8 回：資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白。「ハイデルベルク信仰問答」）<br/> 第 9 回：資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他）<br/> 第 10 回：資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言）<br/> 第 11 回：資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代カトリックの諸教令など）<br/> 第 12 回：資料研究（九） ピューリタニズムの洗礼と聖餐論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」、「ロンドン宣言」）<br/> 第 13 回：資料研究（十） メソディズムの洗礼と聖餐論（J. ウェスレーと「宗教箇条」）<br/> 第 14 回：資料研究（十一） 日本の諸教派の洗礼と聖餐論 1（改革―長老派系、会衆派系、メソヂスト系、バプテスト系、その他）<br/> 第 15 回：資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における洗礼と聖餐理解、まとめ。</p> |                         |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;</p> <p>講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。</p>  |                         |
| <p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>『洗礼・聖餐・職務―教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。A.E. マクグラス『宗教改革の思想』（教文館）。</p>  |                         |
| <p>&lt;参考書&gt;</p> <p>授業中に指示する。</p>   |                         |
| <p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;</p> <p>1. 発表を除き、平生は資料研究中心なので、積極的に質疑応答に参加すること。2. 期末には、各自洗礼と聖餐のテーマについて、興味のある二つの異なる人物、運動の教理を取り上げ、第一次史料を分析し比較・検討せよ。現代神学と実践の立場からそれら教理の意義をレポートで論ぜよ。（分量は、400 字詰めで 30 枚以内）。</p>  |                         |

|  |                         |
|--|-------------------------|
| 組織神学専攻・歴史神学関係  |                         |
| 神学史特殊研究 b  | 棚村 重行                   |
| 後期・2単位   | <登録条件> 組織神学専攻者の履修が望ましい。 |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;<br/> 「洗礼、聖餐、教会と職務ー中世・宗教改革から現代まで」。主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。</p>   |                         |
| <p>&lt;授業の概要&gt;<br/> 後期では「教会と職務」の教理の発展を扱う。先ずWCCの「リマ文書」等の教会と職務の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、そして日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。</p>   |                         |
| <p>&lt;履修条件&gt;</p>  |                         |
| <p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：コース紹介。履修者との導入討議。<br/> 第2回：発表（一） 「教会」についての現代の教理論文を読む。（学生2～3名）<br/> 第3回：発表（二） 「リマ文書」の「職務」について。（学生3～4名）<br/> 第4回：資料研究（一） 中世の教会と職務論1（中世の教会と職務への公式教令文書）<br/> 第5回：資料研究（二） 同上 2（トマス・アクイナス、ヤン・フス、教皇ピウス二世等）<br/> 第6回：資料研究（三） 宗教改革の教会と職務論1（ルターとルター派の「一致信条書」他）<br/> 第7回：資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」）<br/> 第8回：資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白、「ハイデルベルク信仰問答」）<br/> 第9回：資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他）<br/> 第10回：資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言）<br/> 第11回：資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代のカトリックの諸教令など）<br/> 第12回：資料研究（九） ピューリタニズムの教会と職務論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」、「ロンドン宣言」）<br/> 第13回：資料研究（十） メソディズムの教会と職務論（J.ウェスレーと「宗教箇条」）<br/> 第14回：資料研究（十一） 日本の諸教派の教会と職務論1（改革ー長老派系、会衆派系、メソディスト系、バプテスト系、その他）<br/> 第15回：資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における教会と職務理解、まとめ。</p> |                         |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;<br/> 講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。</p>   |                         |
| <p>&lt;テキスト&gt;<br/> 『洗礼・聖餐・職務ー教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。A.E.マクグラース『宗教改革の思想』（教文館）。</p>   |                         |
| <p>&lt;参考書&gt;<br/> 授業中に指示する。</p>  |                         |
| <p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;<br/> 1. 発表を除き、平生は資料研究中心なので、積極的に質疑応答に参加すること。2. 期末には、各自教会と職務のテーマについて、興味のある二つの異なる人物、運動の教理を取り上げ、第一次史料を分析し比較・検討せよ。そして現代神学と実践の立場から教理の意義をレポートで論ぜよ。（分量は、400字詰めで30枚以内）。</p>  |                         |

|   |             |
|---|-------------|
| 組織神学専攻・実践神学関係   |             |
| キリスト教教育特殊研究 a   | 朴 憲郁        |
| 前期・2単位  | <登録条件> 特になし |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;</p> <p>教育を必要とする対象は乳幼児から高齢者までの全年齢層であるが、中でも人格形成に多大な影響を与えるのは幼少期であろう。幼少の子どもは次世代を担う大切な存在でもある。そこで、キリスト教教育学的な児童観を概観し、その上で児童の宗教教育の今日的意義と可能性を探る。</p>   |             |
| <p>&lt;授業の概要&gt;</p> <p>第一に、旧・新約聖書における児童観、教会史上の児童観を、養育・教育を担う場としての家庭や教会との関連で概観する。その上で、脱宗教化する現代精神において、子どもが自己形成の過程として宗教を自ら問う権利について、F.シュヴァイツァーの書物を通して考えを深めていく。</p>  |             |
| <p>&lt;履修条件&gt;</p> <p>特になし</p>   |             |
| <p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総論</li> <li>2. 旧約聖書における児童観</li> <li>3. 新約聖書における児童観</li> <li>4. 新約聖書における家庭訓の意義</li> <li>5. 古カトリック時代の児童観</li> <li>6. 中世カトリック時代の児童観</li> <li>7. 宗教改革時代の児童観</li> <li>8. 近代の児童理解と宗教</li> <li>9. 現代の児童理解と宗教</li> <li>10. 子どもの権利としての宗教的問い—F.シュヴァイツァーとの対話—</li> <li>11. 子どもは宗教を必要としているか</li> <li>12. 大人を悩ませるもの</li> <li>13. 子どもと共に生き、経験する</li> <li>14. 聖書の物語—子どもと聖書を読み、祈る</li> <li>15. こどもは教会を必要としている</li> </ol>  |             |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;</p> <p>次の講義または学生発表のテーマや箇所について、他の受講者も事前に関連諸資料の該当箇所をよく読んでおくこと。</p>  |             |
| <p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>授業の前半は講義中心に進めるが、学生発表も含めて、関連する資料・参考書をその都度指示し、あるいはプリント配布する。</p> <p>授業の後半は、F.シュヴァイツァー著、吉澤柳子訳、『子どもとの宗教対話』—こどもの権利の視点から—、教文館、2008年、を用いる。</p>   |             |
| <p>&lt;参考書&gt;</p> <p>J・H・ウェスターホフ著、奥田・山内・油木訳、『こどもの信仰と教会』、1981年、新教出版社<br/> ハンス＝リュウディ・ウェーバー著、梶原寿訳、『イエスと子どもたち』、1980年、新教出版社<br/> ドイツ・ルター派教会発行の『福音主義(=プロテスタント)成人信仰問答書 - 信仰講座読本 - 』、「親と子」(357～378頁)、(Evangelischer Erwachsenen Katechismus - Kursbuch des Glaubens - , Im Auftrag der Katechismuskommision der Vereinigten Evangelisch-Lutherischen Kirche Deutschlands, hrsg. von Hartmut Jetter, Horst Echternach, Horst Reller und Manfred Kießig, 1975, 1989(5., neu bearbeitete und ergänzte Auflage), Güterslohr. , “Eltern und Kinder”, S.357-371.</p> |             |
| <p>&lt;学生に対する評価(方法・基準)&gt;</p> <p>授業数の2/3以上の出席を前提として、各自の発表と毎回の授業参加度、およびレポート提出を評価する。</p>   |             |

|  |             |
|--|-------------|
| 組織神学専攻・実践神学関係  |             |
| キリスト教教育特殊研究 b  | 朴 憲郁        |
| 後期・2単位   | <登録条件> 特になし |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;</p> <p> sacrament (洗礼と聖餐) を巡る教育的展開を歴史的、宗教教育学的に考察することによって、 sacrament Praxis に役立てる。</p>  |             |
| <p>&lt;授業の概要&gt;</p> <p>受洗準備教育と受洗後教育、聖餐における教示的次元、 sacrament と説教との関係、カテキズム教育、水とパンと葡萄酒に関する P.ビールの象徴教授法、洗礼とアイデンティティ形成論、などを歴史的、宗教教育学的に考察する。講義と学生発表によって進める。</p>   |             |
| <p>&lt;履修条件&gt;</p> <p>特になし</p>  |             |
| <p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総論</li> <li>2. アウグスティヌスによる受洗志願者教育</li> <li>3. アウグスティヌスによる教育的説教論</li> <li>4. ニュッサのグレゴリオスによる洗礼と教会教育 (1) - G.S.Mikoski の論究を手がかりにして</li> <li>5. ニュッサのグレゴリオスによる洗礼と教会教育 (2)</li> <li>6. 宗教改革者ルターの洗礼論における教示的次元</li> <li>7. 宗教改革者ルターの聖餐論における教示的次元</li> <li>8. 宗教改革者カルヴァンにおける洗礼を巡る教育</li> <li>9. 宗教改革者カルヴァンによるカテキズムと教会形成</li> <li>10. 聖餐式における&lt;パン&gt;の象徴教授法 (1) - P.ビールの論究を手がかりにして</li> <li>11. 聖餐式における&lt;パン&gt;の象徴教授法 (2)</li> <li>12. 聖餐式における&lt;水&gt;の象徴教授法 (1)</li> <li>13. 聖餐式における&lt;水&gt;の象徴教授法 (2)</li> <li>14. 現代の堅信礼教育の実践 - ドイツ教会の場合</li> <li>15. 現代の堅信礼教育と若者の生活圏</li> </ol> |             |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;</p> <p>次の講義または学生発表のテーマや箇所について、他の受講者も事前に関連諸資料の該当箇所をよく読んでおくこと。</p>   |             |
| <p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>授業の前半は講義中心に進めるが、学生発表も含めて、関連する資料・参考書をその都度指示し、あるいはプリント配布する。</p>   |             |
| <p>&lt;参考書&gt;</p> <p>Peter Biehl, Symbol geben zu lernen II, um Beispiel: Brot, Wasser und Kreuz, Beiträge zur Symbol- und Sakramentendidaktik, Neukirchen-Vluyn, 1993;</p> <p>Gordon S. Mikoski, Baptism and Christian Identity, Teaching in the Triune Name, Grand Rapids, Michigan, Cambridge, 2009.</p>   |             |
| <p>&lt;学生に対する評価 (方法・基準) &gt;</p> <p>授業数の 2/3 以上の出席を前提として、各自の発表と毎回の授業参加度、およびレポート提出を評価する。</p>  |             |

|  |   |
|--|---|
| 組織神学専攻   |   |
| 博士論文指導演習組織神学 a   | 各指導教授   |
| 前期・0単位   | <登録条件>2011 年度以降博士課程後期課程に入学した組織神学専攻者は、博士論文指導演習組織神学 b と通年で登録すること。 |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;<br/>         学生各自の研究課題に従い、文献の講読や討論などを通じて博士論文を作成する。</p>                 |   |
| <p>&lt;授業の概要&gt;<br/>         各自の研究課題に沿って、諸文献の検討、論文のテーゼや構成・内容などについて指導教授と対話しつつ、博士論文の作成にあたる。</p> |   |
| <p>&lt;履修条件&gt;<br/>         2011 年度以降博士課程後期課程に入学した組織神学専攻者。</p>                                |   |
| <p>&lt;授業計画&gt;<br/>         各指導教授が年度初めに配付する「研究指導計画書」に拠る。</p>                                  |   |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;</p>  |   |
| <p>&lt;テキスト&gt;</p>  |   |
| <p>&lt;参考書&gt;</p>   |   |
| <p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;</p>   |   |

|  |   |
|--|---|
| 組織神学専攻   |   |
| 博士論文指導演習組織神学 b   | 各指導教授   |
| 後期・0単位   | <登録条件>2011 年度以降博士課程後期課程に入学した組織神学専攻者は、博士論文指導演習組織神学 a と通年で登録すること。 |
| <p>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;<br/>         学生各自の研究課題に従い、文献の講読や討論などを通じて博士論文を作成する。</p>                 |   |
| <p>&lt;授業の概要&gt;<br/>         各自の研究課題に沿って、諸文献の検討、論文のテーゼや構成・内容などについて指導教授と対話しつつ、博士論文の作成にあたる。</p> |   |
| <p>&lt;履修条件&gt;<br/>         2011 年度以降博士課程後期課程に入学した組織神学専攻者。</p>                                |   |
| <p>&lt;授業計画&gt;<br/>         各指導教授が年度初めに配付する「研究指導計画書」に拠る。</p>                                  |   |
| <p>&lt;準備学習等の指示&gt;</p>  |   |
| <p>&lt;テキスト&gt;</p>  |   |
| <p>&lt;参考書&gt;</p>   |   |
| <p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;</p>   |   |